

会 議 録

会議の名称	西東京市介護保険運営協議会第8回会議
開催日時	平成29年11月16日（木曜日）午後2時20分から午後3時15分まで
開催場所	田無庁舎3階庁議室
出席者	（委員）金子委員長、須加副委員長、赤司委員、石塚委員、松本委員、内田委員、小平委員、高橋委員、梅田委員、浅野委員、海老澤委員、伊藤委員、前川委員、平松委員 （事務局）健康福祉部長、ささえあい・健康づくり担当部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、他6人
議 題	（1）前回会議録の確認 （2）第7期のサービス基盤の整備 （3）計画（素案）の介護部分 （4）その他
会議資料の名称	（事前送付資料） ・介護保険運営協議会第7回会議 会議録（案） ・西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）素案 （当日配布資料） ・西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）素案（差替え版） 資料1 地域密着型サービスの整備について 資料2 介護給付費の現況について 資料3 在宅介護実態調査結果 資料4 西東京市 介護従事者処遇状況等に関する調査結果 ・参考資料 東京都第3期介護給付適正化計画における保険者に標準的に期待する目標等について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容

1 開会
2 議題 （1） 前回会議録の確認 ○委員長：

前回会議録の確認について、内容の修正、変更等はあるか。(意見なし)

○委員長：

承認を得られたということで取り扱う。

(2) 第7期のサービス基盤の整備

○委員長：

議題(2)第7期のサービス基盤の整備について 事務局から説明をお願いします。

○事務局：

地域密着型サービスの整備について(資料1)について説明

○委員長：

ご質問、ご意見はあるか。

○委員：

定員数の記載はあるが、待機者数、定員割れなどの現状を知りたい。すぐに入所できなくてもよいがとりあえず待機しているというケースを除き、すぐに入所したいが待機している人数を把握できなければ、整備目標が立てられず、地域密着型サービスの整備が進まない。

○事務局：

認知症グループホームの待機者は比較的少なく、整備が進んでいる。地域密着型のデイサービスは利用が多く、これも比較的整備が整っている。小規模多機能型居宅介護、夜間対応型訪問介護は、認知度が低く十分に利用されていない。特別養護老人ホームは、デイサービスで宿泊が可能になるなどの選択肢が増えたため、空きが出てもすぐには入所とならない場合がある。いずれにしても、検証が必要だと考えている。

また、近隣市では、合計500床の特別養護老人ホームの整備計画があると聞いた。西東京市民が入所できないわけではなく、入所すれば西東京市が費用を負担するため、市内に新たな特別養護老人ホームを整備する必要があるのかも検討したい。

○委員：

資料1「2. 第7期計画における地域密着型サービスの整備目標」に小規模多機能型居宅介護または看護小規模多機能型居宅介護を市内全域に一箇所設置するとあるが、この二つの特性は違うので、どちらか一つではなく、医療的な面を考えれば、特に看護小規模多機能型居宅介護施設が必要であると考え。どちらか一つという意味なのであれば、両方必要ではないのか。

○事務局：

もともと、第6期で小規模多機能型居宅介護を考えていたが、思うように整備ができなかったため、看護小規模多機能型居宅介護を取り入れた。両方の実現を希望している。

(3) 計画(素案)の介護部分

○委員長：

議題の(3)計画(素案)の介護部分について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期)素案(差替え版)、在宅介護実態調査結果(資料3)、西東京市介護従事者処遇状況等に関する調査結果(資料4)について説明。

○委員長：

ご質問、ご意見はあるか。

○委員：

民生員としての意見だが、要介護認定の時間短縮をお願いしたい。

○事務局：

現在、諸手続きのため、約一ヶ月を要している。緊急を要する場合は、暫定的にサービス利用できることの周知に努めるとともに、より迅速な認定のための仕組みを検討する。

○委員：

認知症施策についてである。国では「わが事・丸ごと」の議論もあるが、まさに私たちが危機感を感じて第7期の計画を作っていく必要があると考えている。その中で、現在の西東京市職員の認知症サポーター要請講座の受講率はどれぐらいか。

○事務局：

サポーターになった職員は約99%である。養成講座受講を新人職員の研修に組み込んでいく。

○委員：

この事実を広報に掲載し、市の取り組みを周知してもよいのではないかと思う。また、別件であるが、「にしのわ」ができて1年経過したが、その経過の評価と「後方支援病床」の利用状況と実績が数値化されているのであれば、教えていただきたい。

○事務局：

「にしのわ」は昨年の開設から約 100 件の相談がある。専門職からの相談窓口であるので、病院から地域包括支援センターを通さず、直接の相談を受けており、在宅介護と医療を連携するための相談もある。後方支援病床は 2 病棟からスタートし、5 病棟に拡大しているが、利用が伸び悩んでいる。登録の簡素化など課題を整理し、医師の意見も聞きながら、利用しやすい仕組みを検討している。

○委員：

「地域ケア会議」の取組が始まって 6 年経過している。これまで、医療職、介護職との交流についてはできていると認識しているので、今後は多職種間での具体的な解決策を話し合う場とする等を計画の中に入れていただきたい。また、「介護離職」という切実な問題を「家族介護者への支援」の部分に追記していただきたい。

以前、家族を介護していた際、デイサービスの時間延長を、市にテストケースとして行なってもらったことがある。そのサービスは現在に繋がっていないが、その時のデータを利用して、再検討していただきたい。

○事務局：

国の指示の下、西東京市では、現在 3 層の地域ケア会議をおこなっている。1 層から 3 層で個別案件について、多職種からの意見をもとに議論している。「家族介護者への支援」については、家族が介護のために離職するという状況がまだある。委員の言うとおおり、「介護離職者に対して」という文言を取り入れ、認知症デイサービスの延長については、前回の検証をおこない、確認する。

○委員：

認知症サポーターは市民に認知症の理解を深めるために役立つが、専門家である医師の理解不足を感じている。認知症の家族を診療所に連れて行った際、大きな声を出すので待合室から外に出されたりなどされたことがある。認知症患者は暴言を吐いたり大きな声を出したりなどするため、医師から大変迷惑そうな態度を取られる事があるが、家族にとっては大変苦しい事でもあるため、理解を深めていただきたい。

○委員長

これについては、認知症サポーター養成講座等の様々な場面で啓発していただきたい。

○委員：

認知症を患っている本人は、的確に質問やアンケートに答えられない場合が多い。このため、本人の正確な状況を医師やケアマネジャーに把握されないこともあるため、医者やケアマネジャー側の改善に加え、家族が研修等を利用し、異議を申し立てられる程度の知識を持

ちたい。そういう市民を増やしたいため、研修の中に家族に対する研修もいれていく必要があると思う。

○委員長：

問題点の検討をお願いしたい。意見や質問は、今後も事務局で受ける。

4 その他

○委員長：

議題の（４）その他について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局：

次回の会議は、12月26日（火）に田無庁舎3階の庁議室で、介護保険運営協議会のみを開催する。

○委員長：

以上で、第7回西東京市介護保険運営協議会を終了する。

3 閉 会